

令和8年度 学校「学ば力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：27007

「学ば力」	
実態	成果
	<p>◇「知りたいと思ったこと、できるようになりたいと思ったことに、自ら進んで取り組むことができる」と感じている児童が多く、アンケートの数値も上がっている。</p> <p>◇「学習に楽しく取り組んでいる」に肯定的な回答をした児童は9割を超える。授業の中で子どもが興味をもてるように導入を工夫したり、具体物や教材、教具を効果的に活用したりできたことが研究全体会で明らかになった。これからも研修を積み重ね、子どもたちが「わかる」「楽しい」授業作りに励みたい。</p>
	<p>◇テスト等の選択問題には取り組むが、「短答式・記述式」の問題では無回答率が高くなる。</p> <p>◇興味のある学習を切り口にして学習の習慣化を目指し、全員一律の宿題から自主学習へ切り替えたが、意識や方法論で支援が必要である。</p> <p>◇伝える熱量と聞く熱量の差を少なくし、多様な考え方に触れて理解が深まったり、疑問が解決したりする経験が必要と感じる。</p>
「学ば力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇「友達のがんばりやよさを見付け、自分の成長につなげていますか」に「はい」「どちらかといえばはい」と回答した児童は8割を大きく超える。高学年の姿にあこがれをもったり、下の学年に思いを巡らせながら計画・進行したりする縦割り活動をはじめ、普段の学習の中でも、ペア学年やブロックで積極的に関わりを持っている成果といえる。行事によっては「見合いっこ週間」を設けていることも、友達関係が広がるよききっかけになっている。伝統を受け継ぎつつ、発展に向かう意識も育てたい。</p>

「学ば力」の育成のために着目する資質・能力

学びの楽しさを広げ、学びへの意欲を高める子

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>令和8年度研究主題「自ら学ぶ子の育成」の実現</p> <p>(1) 問いが連続する教材化 「なぜ」が生まれる教材づくり 単位時間の明確な学び わくわくする単元構成</p> <p>(2) 思いを表出させ つなげる教師の関わり 誰もが学べる環境づくりと安心できる学級経営を土台に、個の思いを引き出し、それぞれをつなげ、学びを協働から個へ還元する学習サイクル</p> <p>(1)(2)の両輪で学びを深めていく。</p>	<p>子どもの主体性を生かした自治的な活動の充実</p> <p>①主体的な活動・学級活動・学年活動</p> <p>②創造的な活動・委員会活動・クラブ活動</p> <p>③相手意識を育てる活動・縦割り活動・各種行事</p> <p>④ICTを活用した自主管理・スケジュール管理や情報共有など</p> <p>⑤家庭での自主学習の充実</p> <p>⑥コミュニティスクールでの役割</p>
「学ば力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>ステップ1（日常化）まずは使って活用アイデアを広げる。</p> <p>ステップ2（デジタル化）効果的な活用の追及・使用方法の見直し、学習展開の振り返りからICTならではの使い方を探る。</p> <p>ステップ3（探究的な学び・DXへ）新たな学びのスタイルへ・個別最適な学びの機会・協働重視の学び・子どもが選択する学習環境の整備</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

